

広く愛される土谷棚田

そして未来へ…

水面が夕日に照らされ美しく輝く光景は、多くの人々を魅了し、多くの人に愛されてきています。

土谷棚田の美しい風景は、地区住民や土谷棚田のファンによって多くの人に伝えられています。

多くの人に愛される

土谷棚田

土谷棚田が注目され始めたのは、約10年ほど前からです。それまでは、4月下旬から5月上旬に、棚田で作業する人や夕日に輝く棚田を撮影す

るため、数人の写真愛好家が訪れる程度でした。

しかし、ここ数年で田植えの季節にも土谷棚田を訪れる人が徐々に増え始めています。そのきっかけとなったのが、写真愛好家同士の情報交換などで、さらには雑誌などで夕日に輝く棚田として取り上げられたことでした。それに伴い、新たな観光スポットとして写真愛好家のみならず観光客の注目を集め、棚田が夕日に輝く田植えの季節には、多くの人でにぎわいを見せています。

また、火祭りの開催や地域主体の景観保全活動、周辺施設の整備などが評価され、平成17年の第10回ふるさとイベント大賞（財団法人地域活性化センター）の産業・観光部門賞受賞をはじめ、平成16年度の農村整備事業広報大賞優秀賞（全国農村振興技術連盟）、第1回とるばフォトコンテスト特別賞（道守九州会議）など多くの賞を受賞しました。



土谷棚田を訪れる多くの写真愛好家

土谷棚田を写す

写真撮影に訪れた

川添 茂弘さん
(福岡市、50)



すばらしい風景が魅力です

写真をはじめて間もないのですが、花や棚田などの自然を主に撮影しています。昨年までは土谷棚田の火祭りを見学して帰っていましたが、今年は写真に挑戦しました。

土谷の棚田は海に面したなだらかな地形で、やすらぎを与えてくれます。海、島に夕日が沈む景色、水田に映し出されるたいまつは最高ですね。

ここに来るまでに休耕田が多いのが気になりましたが、土谷棚田はほとんどの田んぼに水が張られ、すばらしい景観を保っています。いつまでもこの光景が続いてほしいです。

多くの人が訪れる場所に

観光スポットとして注目され始めたところは、付近を通行できないほどの路上駐車やゴミの放置、棚田へ立ち入った観光客があぜを踏み壊すといった被害が発生していました。

そこで、棚田を一望できる県道沿いの場所を、駐車場兼展望所として整備し、観光客を受け入れていきます。現在は、舗装された駐車場やベンチ、休憩所などが設置され、大型バスでの観光客も増加しています。



土谷棚田に整備された展望所

ファンと共に情報発信

土谷棚田は、火祭りの開催などがテレビや新聞、雑誌などで全国規模で取り上げられる機会が多くなり、着実に知名度を上げています。

そこで、もっと多くの人に土谷棚田の魅力を伝えたいと、保存会と写真愛好家とが協力して、「土谷棚田美術館」というホームページを開設しています。土谷棚田に魅せられた写真愛好家が、ファンクラブを結成し、全国に向けて土谷棚田の風景や取り組みを紹介し、地域活性化の後押しや棚田の重要性について情報発信を行っています。



土谷棚田に魅せられたファンが作ったホームページ

土谷棚田美術館ホームページアドレス
<http://www.doya-tanada.com>

未来へ伝えたい棚田文化

地域の棚田保全や景観保全への取り組みが実を結び、美しい風景を求めて多くの観光客が訪れるようになりました。現在は体験型旅行や棚田オーナー制度など、より多くの人が直接棚田に触れ合える環境作りを進めています。

「棚田で米作りを行うことは重労働だけれども、苦勞をした分だけ収穫の喜びも大きくなる」と、棚田で耕作する人は話します。これからも地域をあげて、棚田を守り、後継者を育て、大切な文化として、今と変わらない土谷棚田の風景を伝えるための取り組みが続けられます。

土谷棚田を伝える



土谷地区区長

末吉 政和さん

(福島・土谷、64)

棚田の保全と後継者育成を

景観に優れた土谷棚田をいつまでも維持できるよう、地区全体が協力して棚田保全に努力しています。休耕田となった田んぼを、地区で管理することで、棚田保全と景観保全を両立させています。

現在、就労状況の大きな変化で、地区内の若者が農業へ関わる機会が少なくなっています。棚田という大きな財産をいつまでも守り、世代間交流を通じて農業後継者を育成できるように、棚田保全に努力したいです。